

新 世界洋上紀行

洗練のヨットスタイルを愉しむラグジュアリーな海の旅

第5回

SAGA RUBY(サガルビー)／中編

英国客船「サガルビー」で巡る
イギリス・アイルランド周遊～アイスランドへ向かう旅

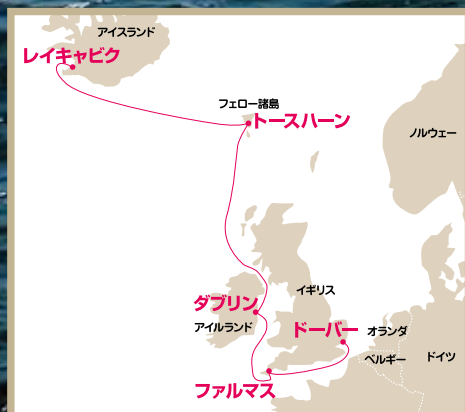
かつて、オーシャンライナーと呼ばれる船があった。まだ航空機が飛んでいなかった時代、目的地に少しでも早く着くために建造された高速の遠洋航路船。やがてその役割を航空機に譲ったオーシャンライナーだが、船旅を愛する人々に支えられ、大西洋の東西を結ぶ定期航路は1970年代まで存続していた。かつてオーシャンライナーとして活躍し、現在はクルーズ客船としてそのクラシックなスタイルが愛されている英国の「SAGA RUBY(サガルビー)」。今回は、アイルランドのダブリンから、北海の中央に位置するフェロー諸島トースハーンへの旅を紹介する。

text&photo: Masaaki Higashiyama

special thanks: SAGA

Mercury Travel

<http://www.mercury-travel.com>



8月7日 ダブリン (アイルランド)

朝8時、サガルビーはダブリンの港へ接岸、涼しさを超えてやや肌寒く感じる。アイルランドの首都ダブリンは今、世界中の企業による工場建設など投資に湧いている。港近くには、モダンな商業ビル施設が立ち並ぶ。

下船して現地在住の日本人ガイドと合流、ツアーに出かける。アイルランドが輩出した著名なアーティストといえば、ミュージシャンのエンヤと、バンドではU2。ツアーでは彼らの住む海沿いののどかな街も巡ってくれた。U2のボーカリスト、ボノは、街中の普通のアイリッシュパブで飲んでいたり、奥様はご近所さんと仲良く暮らし、環境問題に熱心に取り組んでいるという。卓越したスーパースターが普通の感覚を持っていることは、社会にとってもいい影響を効果的にもたらすことがある。

その後、アイルランドで最も美しい庭園のひとつといわれているパワーズコートを訪れる。その庭園の美しさ、規模はかつての栄華を誇った時代を偲ばせる。現在では敷地内にゴルフ場やリッツカールトンホテルも存在する。

次に訪れたのがギネスの工場。古くからのレンガ造りの建物は、中をきれいに改装したミュージアムになっている。最上階の展望ラウンジで試飲したギネスの黒ビールは雑味のないすっきりとした美味しさ。その後ダブリン市街の古くから続くアイリッシュパブでもう一度黒ビールを注文。やっぱり美味しい。日本で飲むより軽い感じがする。ここでは黒ビールと生牡蠣がおすすめ。きっとここは昔からこの街の人たちの憩いの場なのだろう。

夕刻、バスで船へ戻る。正直なところ、これまでアイルランドのことはあまり知らなかった。独特な文化があり、自然があり、人々の少しスローな生活があり、そしてちょっと控えめな印象。またいつか、夏に船で訪れてみたい。

18時ダブリンを出港、船内では優雅なナイトライフが始まる。18:30から夕方のダンスタイム、19:00からはメインダイニングでのディナー。少しメニューを紹介すると、前菜はソフトシェルクラブのてんぷらなど4種、スープはラムのコンソメなど3種、メインは子牛肉のソテーなど5種。この中から好きなものを選ぶ。食事代はす



北の国の短い夏、船尾に面したデッキのプールに貴重な陽光が降り注ぐ。大人限定の船ならではの、ゆったりとした時間が流れる。上の写真は、メソネットタイプのサガルビー最大のスイートルーム。ジェットバス付きのバルコニーが豪華だ。右は、標準的な海側ツインタイプのキャビンで、トイレ、シャワー、バスタブ完備。



アイルランド、ダブリンからの寄港地観光で訪れたパワーズコート邸、ギネス工場、ダブリンの繁華街にあるアイリッシュパブ。またいつか、夏に訪れてみたい場所だ。

8月8日 終日航海日

サガルビーは、アイルランドとイギリスの間を北上中。曇り空ながらも波は穏やか。朝7時半にいつもキャピンスチュワードが部屋にお目覚めの紅茶を運んできてくれ、今日の天気を説明してくれる。

この船はほぼ100%イギリス人船客である。彼ら彼女らはとても穏やかで行儀がいい。例えばアメリカで何千人も乗る大型船では、朝食ビュッフェで信じられないほど皿に盛り、これまた信じられないほど食べ残すのを見かける。正に大量生産、大量消費、そして大量廃棄の国。イギリス人船客はそんなことはしない。自分の食べたいものを食べられる量だけ皿に取る。その感覚は明らかに、アメリカ人よりも我々日本人に近い。



イギリス人の船内での過ごし方のひとつに読書がある。「読書なんて平凡な……」と思われるかもしれないが、彼らはとても楽しんで本を読んでいる。それはデッキだったり、ラウンジだったり、ライブラリーだったり、それぞれがお気に入りの場所で楽しんでいる。この船は自身のパソコンではインターネットにつながらない。テレビはBBCなら映る。一応かんたんな新聞は毎日部屋に入る。家にいるときより、どこか不便。そして、その「どこか不便」を楽しんでいる自分がいる。目先の最新情報は入らないが、ずっと読みたかった本を読破し、その著者に何かを学んだり、共感したり……。少し人と喋りなくなったら、3時のアフタヌーンティーに行けば、だいたい顔見知りと出会える。これまでの船旅のこと、これから先の船旅への期待感など、話が自然と膨らんでゆく。



緊張感漂うサガルビーのブリッジ。昼夜問わず、常時数人がウォッチの体制をとる。船齢38年を感じられるノスタルジックな計器と、最新鋭のレーダーなどハイテク機器が混在する。



ディナーの後、今夜はボールルームでクラシックコンサートが催された。生で聴くバイオリンの音、見事なピアノの演奏、音楽は心を豊かにしてくれる。これも大人の嗜みとして必須ではないだろうか。

8月9日 トースハーン (デンマーク領フェロー諸島)

サガルビーはひたすら北上を続け、予定では今日の昼にはデンマーク領の島、トースハーンに到着する。今朝はメインダイニングでイギリスらしい朝食をメニューから注文、それはビーフステーキだ。朝からステーキ？これがけっこうイケるのだ。なんだか元気が出てくる……気がする。

朝食後、ブリッジへ向かう。現代のクルーズ船では残念ながらセキュリティの関係でブリッジにはほとんど入ることはできない。ただし今回は、取材ということで特別に許可が下りた。

船齢38年の船のブリッジには、年季の入ったクラシカルな計器と、最新のレーダーなどハイテク機器が混在。ちょうどキャプテンは不在で、オフィサーがウォッチをしていた。ブリッジの両ウイングは屋外になっている（最近の船は屋内でブリッジと続いている）。入

出港時、寒いときは大変だろう。

以前、バーで隣り合わせた機関長に質問をしたことがある。「この船は船齢38年だが、古さゆえの問題はありますか?」。すると機関長は、「そりゃ、古いだけにトラブルはある。ただすべては経験済みなので特に問題はない。むしろ最新鋭客船のトラブルの方が対処法がわからず、やっかいなことがある」と話してくれた。老練なサガルビーは、これらベテランのクルーによって操船され、世界中の海を長年渡り歩いてきたのだ。

昼過ぎ、船の速度が落ち、島影が見えてきた。色とりどりの鮮やかな家々が斜面に並んでいるかわいい島。デンマーク領フェロー諸島、トースハーンに定刻どおり到着。

すごく小さな島だ。1時間もあれば島内すべて散策できるかもしれない。しかしクルーズの寄港地に時にこういったのどかな場所が入っていると、どこかほっとする。たとえば地中海などにクルーズに行くと、昨日はモナコ、今日はローマ、明日はナポリといった感じで、毎日夢のような場所へ連れて行ってくれる。しかし人間は、一時に何かを見て感動できる許容量が決まっているのではないだろうか。つまり、すごく贅沢な悩みを抱えることになる



イギリスらしい朝食といえはモーニングステーキ。サガルビーの食は、洋上でもかなりレベルが高い。肉料理のバリエーションも豊富だが、つつい食べ過ぎに要注意。



フェロー諸島、トースハーン。坂を下った先の港にサガルビーが錨を下ろす。どこの港もそうだが、客船が入ると港全体が華やかになる。

のだ。ローマひとつとっても、1週間でも足りないほどの魅力ある都市なのだから……。

ランチの後、下船して徒歩で探索。まず1件のカフェに立ち寄り、持参したノートPCでメールのチェック。ここではすでに何人かのサガルビーのクルーが、同じようにメールのチェックをしていた。彼らは半年以上母国を離れて働いている。これが、家族、友人との貴重な語らいの時間なのだろう。今時はスカイプで会話を楽しんでいるクルーもよく見かける。

カフェを出て坂を上る。ちょっと大き目のショッピングセンターに入ってみる。…その土地の店に入る。商品の値段を見る。そして物価を知る。…薬局に行く。目薬を買いたい。全然言葉が通じない。身振り手振りや筆談でなんとか購入。店を出る。少し道に迷う。それなのに日本食が恋しくなって、寿司レストランに入って、バカ高い寿司をいただく。帰りに本屋さんに立ち寄って、船に戻る……。

当たり前だけど、この島の人たちはここで生まれ、ここで育って、

ここで働いている。日本からすごく遠い、大海原の真ん中にある小さな島。なんとも不思議な気分になる。自身の人生の中で、また再び訪れることがあるだろうか……。

ディナーでは、なんと今日は、我々日本人のテーブルには特別に寿司が出された。うれしい反面、ちょっと複雑。さっき、バカ高い金を払って食べたところなのに……。

20時出港、外はまだまだ明るい。かなり北に來たのだろう。明日は北極圏の国アイスランドへ、ついに上陸する。 **P.B.**

Profile

東山真明

海と船の旅をこよなく愛する、海外クルーズエージェント。大型客船よりも、プライベート感ある上質な「ヨットスタイル」のクルーズにこだわり、国内で小型船クルーズを取り扱う4社による「スモールシップ アライアンス」に加盟、その啓蒙に励む。マーキュリートラベル代表。

■マーキュリートラベル TEL: 045-664-4268

<http://www.mercury-travel.com>